

# 校 園 名：東京学芸大学附属幼稚園（小金井園舎）

所在地：〒184-8501 小金井市貫井北町 4-1-1

電話番号：042-329-7812

記載日：平成28年5月25日

記載者：山田有希子

記載者役職：副園長

## 本園舎の特色

教育目標 ～感動する子ども・考える子ども・行動する子ども～

幼児教育の特色：地域の子どもたちを家庭・地域とともに育てる

- ⇒ 日常的に、保護者・地域人材と連携した教育内容
- ⇒ 卒園児の7，8割が地域の公立小学校に就学

教育実習・教員養成の特色：大学1年生から4年間を通した

教育実習プログラムの実施

- ⇒ 大学・竹早園舎との密接な連携を基にした教員養成
- ⇒ 日常的な環境整備・保育補助・行事等への参加

教育研究・教員研修の特色：学び合う研究会の開催及び研究・研修のフィールド

- ⇒ 研究会・研修・研究協力・参観等、毎年のべ500名以上の受け入れ

社会貢献の特色：地域との連携及び幼児教育の質への意識向上への貢献

- ⇒ 地域行事への参加・育児支援活動の開催
- ⇒ 各種研究会等における講師



春の3歳児学年園庭

## 地域における本園舎の存在

### 『地域につながる、子ども・保護者を育てる場としての存在』

本園舎は、全園児が保護者とともに徒歩で登降園することをきまりとしていて、居住区域を園舎周辺約1、5km 圏内に定めています。つまり、地域の子どもたちと保護者が在籍しています。そして、卒園児のほとんどが地域の公立小学校へと就学します。そのため、園生活での取り組みや子ども同士・保護者同士・地域の協力者等とのかかわりが、地域の小学校以降に継続する役割を担っていると考えます。

### 『地域の小学校・保育所等と連携する幼児教育現場としての存在』

本園舎在籍児の居住地は3市にまたがっており、就学する公立小学校は7、8校になります。就学前には、就学する小学校との連絡会を行っており、情報交換及び、幼小現状理解の機会となっていると考えます。

また、年1回開催している公開保育では、近隣幼稚園・保育所・小学校からも参加者が増えており、保幼小がともに学び合う機会を提供する役割を担っていると考えます。



稲作～保護者・地域の協力者とともに

## 附属学校の存在意義、本園の存在意義について

前項“本園舎の特色”“地域における本園舎の存在”に重なりますが、以下の①～⑥を全て兼ね備えていることに本園の存在意義があり、かつ、国立大学附属学校であるからこそ可能だと考えます。

- ①地域と密接につながりのある幼児教育現場である  
⇒全員が徒歩通園圏内に居住している
- ②地域の平均的な幼児集団である  
⇒卒園児の7, 8割が地域公立小学校へ就学する
- ③保護者が、附属の使命を理解し協力体制がある、地域住民である  
⇒全保護者が一人一役を担い、小学校PTAへとつながる
- ④日々相互研鑽を図る教師集団である  
⇒年間約40回の園内研究会 及び 各種講師を担える教員
- ⑤大学と密接に連携した教育実習プログラムを実施している  
⇒大学4年間を通して日常的に来園可能な現場である
- ⑥多校園種教員・学生・研究者等の学びのフィールドである。  
⇒参観・研究・視察・研修等、多様な学びの受け入れ現場である



節分～学生とともに

# 保護者画 一 園舎全景 一

東京学芸大学附属幼稚園

小金井園舎



Yoshino.0